

精神保健福祉公開セミナー 映画「ふたつめの影」上映会&講演会

精神医療の先進国イタリアは30年以上前に精神病院を廃止し、地域で支えるシステムを構築しています。我が国日本でも「退院促進」や「地域生活支援」が叫ばれていますが、まだまだ欧米諸国に比べ精神科病院の病床数は減少しておらず、地域での受皿の整備も十分とは言えない状況があります。

映画「ふたつめの影」は、イタリアの精神保健改革の中心人物であるフランコ・バザーリアがゴリツィア病院に赴任した時の取り組みを描いたものです。

この分野では後進国と言われる日本にとって、この上映が大きな意義を持つのではないかと考え、今回上映会を企画しました。

また、イタリアの精神保健福祉の取り組みを精力的に取材され、イタリアの第1回バザーリア学術賞を受賞されたジャーナリストの大熊一夫氏をお招きし、時代背景やその後のバザーリアの取り組みなどを含めた映画の解説と、これからの日本の精神保健福祉のあり方について、ご講演いただきます。

障がい当事者をはじめ、精神保健福祉関係者、学生、興味のある方など、多くの方にご参加いただきたいと思います。

【日 時】 2012年3月31日(土) 13:00~16:30

【場 所】 シネマ尾道(尾道市東御所町6-2)

※ 駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用になるか、近隣の有料駐車場をご利用ください。

【内 容】 映画「ふたつめの影」上映会及び講演会
講師：大熊一夫氏(ジャーナリスト)

【定 員】 112名

【料 金】 一般の方 1,000円、
障がいがある方・学生 500円
※前売り券販売中

【主 催】 社会福祉法人尾道のぞみ会

【上映協力】 大阪ドーナツクラブ、シネマ尾道



「心の病はあらゆる病気と同じように尊重されるべきだ。心を病んでいても人間なんだ。」
—バザーリア

「医師も看護師も治療だと言ってわしを虐待していた…。わしは自分のふたつめの影に逃げ込んだんだ。すると何も感じなくなった。」

—劇中のセリフより

《お問い合わせ先》

〒722-0042 尾道市久保町92-2

社会福祉法人尾道のぞみ会 事務局：橋本
電話 (0848) 37-6040 FAX (0848) 37-1342

ふたつめの影

La seconda ombra



1961年、北イタリアはゴリツィアの県立精神病院。ひとりの用務員が洗濯物を回収しながら、施設内の暴力的な現状をひそかに観察している。

実は彼は新しく赴任する院長であった。後日改めて颯爽と登場した彼は早速職員たちを集め、病院を本質的に改変する意思を表明。拘束服、電気ショック、冷水シャワーなど、それまで平然と行われていた「医療行為」は即刻排除。閉ざされていた精神病院の扉を開け放ってしまうなど、それまでなら考えられなかったアイデアを次々と実行に移していくのだが…。

この映画は、精神医療の先進国イタリアの伝説的精神科医、フランコ・バザーリア（1924-1980）に捧げられている。彼が現場で感じた苦悩と喜び。その成果としての大いなる改革。患者達と一緒に挑んだ精神病院制度の解体。バザーリアと浅からぬ縁があり、精神医療についてのドキュメンタリーを若い頃から撮り続けてきたアゴスティが、バザーリアの死後20周年を機に、詩的な映像とドキュメンタリータッチを織り交ぜた独自のスタイルで渾身の映画化。



精神医療後進国と言われて久しい日本での上映が既に反響を呼び始めている一方、「新しい発想を持つこともさることながら、古い観念を乗り越えるほうがより難しいのかもしれない」という普遍的な捉え方もできる作品だ。

●2000年●イタリア●カラー84分●監督・原案・脚本・撮影・編集／シルヴァーノ・アゴスティ

●音楽／ニコラ・ピオヴァーニ●キャスト／レーモ・シローネ、ゴリツィアとトリエステの旧精神病院入院患者およそ200名



映画「ふたつめの影」上映会&講演会

日時：2012年3月31日（土）13:00~16:30

場所：シネマ尾道

講師：大熊一夫氏（ジャーナリスト）

料金：一般1,000円、障がいがある方・学生500円

主催：社会福祉法人尾道のぞみ会